

鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画策定会議（外部委員会）

第3回委員会 議事録

日時 令和7年(2025年)3月26日 (水)

10:00~12:00

会場 鎌倉市商工会議所 301 会議室 (zoom 併用)

1. 出席者

<会場出席>

委員

委員長

金子 雄一郎 (社会資本マネジメント)

副委員長

勝地 弘 (道路)

委員

出雲 淳一 (道路)

委員

堀江 信之 (下水道・河川)

委員

飯田 晶子 (緑地・公園)

鎌倉市

事務局

都市整備部

森部長

都市整備部（下水道河川課）

杉浦次長

都市整備部（都市整備総務課）

高橋次長

都市整備総務課

横山担当係長

富樫

永井

施設所管課

伊藤課長

道水路管理課

八千代エンジニヤリング株式会社

事務局（コンサルタント）

<リモート出席>

鎌倉市 施設所管課職員

道水路管理課

道水路調査課

道路課

下水道経営課

下水道河川課

農水課

作業センター

浄化センター

みどり公園課

環境施設課

事務局（コンサルタント）

八千代エンジニヤリング株式会社

2. 議事

1 アンケート・ヒアリングの結果について 資料1

2 PDCA サイクルの評価方針について 資料1

3 施設別施策について 資料1

4 その他

・次回委員会について 資料1

3. 内部委員会資料

- ・ 資料1：第3回委員会説明資料

4. 開会あいさつ等

～開会、資料確認、傍聴者入室について確認～

～傍聴者入室～

～第1回委員会（令和6年（2024年）8月19日）、第2回委員会（令和7年（2025年）1月17日）の議事録確認・確定～

5. 審議内容

(1) アンケート・ヒアリングの結果について

- ・ 委員長：それでは、議事に入ります。次第の1から事務局より説明をお願いいたします。
- ・ 事務局：—資料1 p1, 2 説明—
- ・ 事務局：続けて、白書の改訂ポイントについては事務局（コンサルタント）から説明させていただきます。
- ・ 事務局（コンサルタント）：—資料1 p3 説明—
- ・ 委員長：ご説明いただきましてありがとうございます。残りの時間で質疑や議論を行いたいと思います。p3の個別施設計画について具体的にどのような計画か教えてください。
- ・ 事務局：橋梁長寿命化、道路舗装修繕、ペデストリアンデッキ、緑地や公園、下水道のストックマネジメント計画、漁港の機能保全計画などがあります。
- ・ 委員長：現行のマネジメント計画策定以降に個別の施設の長寿命化を目的とした計画が立てられており、その中で点検等の実施も行っている部分を追加して反映しているということですね。
- ・ 委員：p2の白書とマネジメント計画を統合して整理するということですが、白書は残るのかそれとも資料編だけになるのでしょうか。白書として残すこともよいと思います。
- ・ 事務局：現行の白書とマネジメント計画は重複があるため、可能な範囲でスリム化を図り、白書は現状を示す資料編として扱う案を想定しています。最終的には本委員会のご意見を踏まえて決定します。
- ・ 委員長：これまでのつながりを踏まると白書として整理することも考えられますが、そちらについてはまとめる段階でまたご意見をいただければと思います。
- ・ 委員：4点質問です。1点目は、白書の改訂にあたって総務省のマニュアル等に記載ありますか。改訂のポイント、項目立てとか示されていますか。2点目は、今回改訂の位置づけは、全体の中でどうなりますか。3点目は進捗評価で、計画はどこまで進んだのでしょうか。PDCA評価等からこれまでの仕事の仕方が良かったのか、どう改善するのかが重要になると思います。4点目は機能評価で、市のインフラが市民に安全で豊かな暮らしを届ける機能を満足し続けられるか、白書または計画で整理をしていただきたいです。
- ・ 事務局：1点目について、策定期限は不明のため後日確認させていただきます。2点目について、今回の位置づけは、現行のマネジメント計画 p254のスケジュールに基づき、平成27年の策定後の最初の短期改定（9年間の途中の見直し）に当たるため、全体の抜本的見直しではなく短期的見直しの位置づけです。ただし、社会情勢の変化を踏まえ、個別施策のみならず上位方針も必要に応じて見直す可能性があります。3点目について、施設別施策の進捗は、所管課の取組状況、達成状況、課題感を聞いているため、それを踏まえて現行施策の課題の抽出を行っています。また、施策の更新にあたって新たな施策等も含め、現状の取組の達成状況や、課題感も踏まえて整理をします。4点目の機能評価は、ご意見を踏まえて検討します。

- ・ 事務局： —資料1 p4-6 説明—
- ・ 事務局： 続けて p7 以降の課題解決に向けた方向性については事務局（コンサルタント）から説明させていただきます。
- ・ 事務局（コンサルタント）： —資料1 p7-9 説明—
- ・ 事務局： p10-22 は、p9 と同様に各施設別施策を整理しているため、時間の都合上省略します。p23 に課題の傾向等を分析するためにインフラ分野ごとの未達成の施策について整理をしております。
- ・ 事務局：—資料1 p23-24 説明—
- ・ 委員：3点質問がございます。1点目は、p6 の PDCA サイクルについて、縦軸及び横軸に設定している達成度、実行度については数値化できますか。2点目は、p7 の現行の基本施策で効果額を算出したということですが、p25 が効果額の算出としてマネジメント後に増加した部分について数値化しているようですが、その原因は把握しておりますでしょうか。3点目は、p8 に達成済みと評価されている橋梁ではⅢ判定の修繕が終了し、今後はⅡ判定に着手とあります。これはこれまで橋梁長寿命化計画に基づいて、国からの補助金があったから達成出来たのではないかと考えています。今後も補助金が前提となるマネジメント計画なのでしょうか。
- ・ 事務局：1点目及び2点目について、次の審議事項で説明させていただきます。3点目について、国費を充当できるため計画を策定している面もありますが、マネジメント計画と連動する計画と位置付けているので、国費がつかないと個別施設計画を策定しないということは考えていません。
- ・ 事務局：橋梁に関しては、長寿命化計画に基づき必要額の 50% 分を国費で賄っています。一方で、長寿命化計画を作っても国費が入らないものは市の財政によって進捗は悪くなるところではあるため、全体として国費ありきで進んでいるところです。
- ・ 委員長：補修に対して国費がつく認識でよいでしょうか。
- ・ 事務局： そうです。5 年ごとに点検をしており、それに基づき長寿命化計画の更新をしております。その計画に基づいて補修をすることで、交付金を充てることができます。
- ・ 委員長：トンネルについて国費は充当されていますでしょうか。
- ・ 事務局： トンネルについても国費を充てながら進めています。
- ・ 委員：p23-24 の課題についてモノカネヒト情報で整理しておりますが、モノの扱いが難しいと感じました。p23 の未達成の取組中の中に、トンネルの長寿命化計画があるが、予算と人が足りないので達成ができないことですが、舗装は修繕指標を設定していないことなので、トンネルの取組中とは扱いが違うと思いました。トンネルの方は予算を投下や人を確保するのは大変だが、策定された計画を確実に実施すれば効果が出るところですが、修繕指標を設定していない方は、そこに検討が必要になりますので、同じ未達成の取組中と分類した施設別施策でも温度差はあると感じました。モノの扱いについて丁寧に見ていかないといけないと思いました。
- ・ 事務局：p23-24 は課題解決の方向性について、取組中の課題感も内容も様々ではありますが大きくまとめていたところです。各施策の評価の中では、より具体的に取組実行度やその内容を評価していきたいと考えています。
- ・ 委員長：p24 のまとめでは、ストック膨大、施設の老朽化、計画未策定など問題点がかなり多く含まれています。モノとして整理されている課題については丁寧に見ていく必要があるということですね。
- ・ 委員：2点質問があります。1点目は、デジタル化が一定程度進んだ一方で人員不足の問題は顕在しているとのことですが、鎌倉市の中で AI の活用、効率化について議論がどのくらい進んでいるのでしょうか。2点目は、マネジメント計画の対象として、都市計画道路の今後の整備は項目として入らないのでしょうか。すでに出来上がっている道路のみを対象としていますか。
- ・ 事務局：1点目について、職員が使える AI は、チャットボット形式のもので、多少文章を整える程度の活用にとどまり、職員のマンパワー不足解消に向けた具体的な議論は進んでいないと思います。民

間業者から、一部の AI の活用方法の情報提供はあります、具体的な導入までは至っていません。新しい技術の導入となると先行事例を確認した上での導入となり、実現は難しいとは思いますが、積極的に取り組む必要性を認識しています。2 点目について、マネジメント計画における取組の視点としてモノを増やさないという考えがあるため、マネジメント計画の対象としない予定ですが、情報の整理は必要だと思います。

- ・ 委員：今回の見直しにあたり AI を活用できそうなところがあれば、具体的に検討することが大事だと思います。新技術等も取り入れて、民間のアイディアも活用しながら人員不足解決につながるとよいと思います。都市計画道路について、廃止箇所や整備が必要な箇所について県との調整が必要と考えますので、この計画の範疇ではないかもしれませんが重要性について気になりました。
- ・ 事務局：都市計画道路の見直しは適宜行っており、廃止した箇所もあります。用地取得の課題などもあり、今回の計画は、現状で管理している道路等について対象としています。
- ・ 委員長：AI の活用は大事な指摘だと思います。点検、情報管理など足りないところをカバーする技術がカギになると思うので、改訂に盛り込んでいきたいです。
- ・ 委員：課題のあぶり出しは、議論するうえで非常に重要な評価だと思います。取組状況について、達成や未達成と分類していますが、施設も観点も膨大なので、限られた時間で最終目標に到達できるように、最後の出来上がりを想定した A3 パンフレットのイメージがあると良いと思います。また、参考マニュアル等見ていませんが、数値化の議論について、評価の仕方は典型的なものがあるのでしょうか。施設別での進捗評価、PDCA 評価に関して、5 段階の評価や、モノカネヒト情報でレーダーチャートとかも考えられますが、全体をどう総合評価しますか。評価の仕方について、計画策定時は議論できていたなかったため、全体の評価を一覧で示し、その中で個々の点数つけを議論して、それに基づいて評価できたら全体がわかりやすいと思います。また、課題整理を通して何に力を入れて改訂すべきかが見えると良いと思います。
- ・ 委員長：最終的な段階で市民の方に公表するときの骨子を念頭に、短期計画の状況や社会情勢の変化を踏まえて、次の中期計画をどう見直すかを早めに検討して、委員の皆様を含めてご意見を聞いて合意形成しながら、実施していきたいですね。評価に関しては、作業が多く発生しないよう、必要な作業を確認して効率化することも必要だと思います。それから、数値化については、これまでの 9 年間を振り返るときに数値化できるところ、できないところ、5 段階の評価も考えられそうでしょうか。具体的なイメージ等があれば教えてください。
- ・ 委員：具体的なアイディアはありませんが、全体の評価や課題整理で改訂する力点が見えると良く、また、これを説明するときに説得力が増せば、計画を作った意義が出てくると思います。
- ・ 委員長：p23 の情報をわかりやすく整理するとよいですね。関連して機能評価ですが、白書の方でインフラの状態や点検取組状況などについてまとめていると思いますが、これまで取り組んできて機能として維持できているかどうか定量的に把握できると思うので、その情報は重要になります。管理水準、状態をみて維持できているかどうかを確認し、目標などをたてられると良いと思います。
- ・ 事務局：p3 で右下に示す通り、今回の改訂にあたり判定区分や、健全度評価があるので、モノの評価の指標としてこちらを踏まえて取組評価したいと思います。
- ・ 委員長：下水道について、埼玉の事故があり、市民の方の関心もあると思うので、現状の技術力不足、ストック、コスト増大などの課題を詳しく説明していただけますか。
- ・ 事務局：埼玉県の事故を受けた対応として、全国的に下水道管理者が点検を実施しています。鎌倉市では、污水管の最大径は 1.35m であり、これらを対象に点検をしています。雨水管には管径 2m 以上のものが存在しますので、これらについても点検をしていきたいと考えています。市の道路管理者との連携としては、大口径の下水管が埋設された市道の路面下空洞調査を実施しており、現時点では異常は確認されていません。日常点検を実施し、道路陥没の発生防止に向けた調査の在り方を検討します。また、今後は、包括的民間委託や WPPP 等でも対応していく予定です。
- ・ 委員：下水道は、見えないインフラですが資産額はとても大きくて、設備が多くてライフサイクルが

短く、このままでいいのかと直感的には思います。現場では、下水道事業団に頼んでいる部分があるので処理場は計画的に進んでいるかと思いますが、管路に関しては調べないと何もわからぬいため、関係者が情報を出すようにできればよいと思います。急に確か2か月ほど止まったこともありますし、計画の施設分類も道路に比べると荒いと感じます。

- ・ 事務局：重要幹線の耐用年数は50年であり、耐用年数を超えた箇所を優先して更新する計画を令和4年から開始しています。一方、昭和40年代に開発された団地等に敷設された施設は50年以上経過しており、状況把握が十分でないため包括的民間委託の中で調査を進めています。
- ・ 委員長：下水道施設の機能支障は、生活への影響が大きいですが、点検には危険を伴うこともありますし安全確保で進めていただければと思います。次の議題に進めさせていただきます。

(2) PDCAサイクルの評価方針について

- ・ 事務局：一資料1 p25-26 説明一
- ・ 委員：p25について、物価上昇の影響が大きくて単純な差をとるだけではなく、物価上昇を加味した計算でないと比較が難しいのではないかと思います。物価上昇については反映する予定でしょうか。また、p26の黒丸を置くとなると、判断について客観性を求められますが、人員が限られている中で指標が多く、大変な作業が発生してしまうと思うので、シンプルなチェックリストなどで簡略化することもよいと思いました。
- ・ 事務局：物価上昇に関しては加味する必要があると思います。各施策の評価についての作業はできるだけシンプルにしたいと思います。
- ・ 事務局：評価の数値化は難しいと思っておりましたので、策定時からの進捗等を簡易な3段階程度の指標でまとめることを想定していましたが、いただいたご意見を踏まえて改めて検討します。
- ・ 委員：研究者も研修費を獲得して自己採点をしますが、順調、おおむね順調、そうでないか程度で評価しています。
- ・ 委員長：アンケートやヒアリングの結果から大方の評価が分かっていると思いますので、この作業が目的化しないようにしてください。また、目標に関しては、現行計画でも議論しておらず、簡単な目標しか設定していないと思いますので、基本的には安全安心が確保できるようにという視点から簡単にチェックしていくことでもよいと思います。
- ・ 委員：p25の効果額は金額が大きいほど効果があるという見方になりますか。その場合、物価上昇を考えるとどうなりますか。
- ・ 事務局：中間評価として、現時点での達成状況を評価します。
- ・ 委員：予定されている予算に対してどのくらい支出があったかが効果額になるということですね。施策の中で、技術革新等で当初よりも経費が軽減されたものもあると思います。その曖昧な部分を明確に定義すると良いと思いました。また、p8で施策全体の達成未達成や廃止統合などの整理があります。p26では有効性を高める検討ということですが、今回の評価の結果として廃止や統合にも行きつくことはあり得るのでしょうか。
- ・ 事務局：はい。例えば、計画策定当時の状況と現在の状況を踏まえて統合や廃止などを考えていきたいと思います。
- ・ 委員：効果額という言葉を使用していますが、投資の進捗率だと思いますので、誤解を生む言い方かと思います。一般には、総資産額/耐用年数が年間必要投資額です。当初計画で試算されたマネジメント後経費とR5年までの実績経費を比較することですが、予防保全型に移行できていない分野は、マネジメント前の額が本来必要な額になるため、分母が何なのかを意識して前後の効果を整理してほしいと思います。また、p26で右上に行くほど有効とありますが、縦軸インプット、横軸アウトプットとすると、ローインプット、ハイアウトプットが本当は一番いいと思います。この右上に行くほど有効というのは計画実施における有効性評価であって、市民にとってはどうなのか。次の議論に進め

るために評価の仕方をどうするのか、数値化できる部分も含めて早くまとめられると良いと思います。

- ・ 事務局：効果額ではなく投資の進捗率というご指摘はおっしゃるとおりだと思います。ご指摘を踏まえて検討します。
- ・ 委員長：事務局の方では、p25、26 について今日のご意見を踏まえて案を見直し、作業開始前に委員の皆様へご確認いただく予定です。

(3) 施設別施策について

- ・ 事務局：—資料1 p28-29 説明—
- ・ 委員：基本認識として、長期デフレ基調からインフレ経済に、また、明らかに人が足りない社会に突入しており、世界が予測困難にと、当初の計画時と仕事の環境、予測する背景が大きく違っていることに留意すべきです。社会変化にどう対応するか、うまく整理していく必要があります。
- ・ 委員長：具体的な変化として、インフラにとっては影響が大きい気候変動による災害の激甚化も踏まえられたら良いと思いました。

(4) その他 次回委員会について

- ・ 事務局：—資料1 p30 説明—
- ・ 委員長：今後のスケジュールあるいは、本日の議論に関してご意見はありますか。
- ・ 委員：前の議論に戻りますが、PDCA サイクルにおける施策の評価については、目標達成度の評価は、細かい評価項目ごとに目標達成度を評価するのではなく、もっと簡単に基本方針1～4（もの、金、ひと、情報）が目標達成出来たかどうかを評価すればよいと思います。また、評価の定量化について点検をこまめに実施している施設は数値化できると思いますが、こまめに管理が行われていない施設もあります。管理状況に応じて定量的に評価できる施設と定性的にしか評価出来ない施設とに区分けて整理すると良いように思います。
- ・ 委員：前回の委員会でもお伝えした通り、複数の計画の統合化が大事だと思っているので、現行のマネジメント計画 p254 の全体スケジュールに各課の関連計画も重ねたものを次回委員会までに作成していただけだと議論が進むと思いました。
- ・ 委員長：それでは、これをもちまして本日の委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上